

2008年4月24日

2008年3月及び2007年度パーソナルコンピュータ国内出荷実績の発表

本日、2008年3月分のパーソナルコンピュータ国内出荷実績を発表しましたので、お送り申し上げます。なおご質問等ありましたら、当協会・コンシューマ・プロダクツ部または総合企画部・広報室宛お願い致します。

(社) 電子情報技術産業協会 コンシューマ・プロダクツ部

Tel:03-5275-7260/Fax:03-5212-8122

総合企画部 広報室

Tel:03-5275-7254/Fax:03-5212-8123

2008年3月パーソナルコンピュータ国内出荷実績

| | 3月実績 | | 第4四半期 | | 下半期 | | 2007年度 | |
|-----------|---------|-----|---------|-----|---------|-----|---------|-----|
| | | 前年比 | (1~3月) | 前年比 | (10~3月) | 前年比 | (4~3月) | 前年比 |
| 出荷台数計(千台) | 1,213 | — | 2,769 | — | 4,939 | — | 9,301 | — |
| デスクトップ | 375 | — | 898 | — | 1,674 | — | 3,266 | — |
| オールインワン | 141 | — | 407 | — | 818 | — | 1,590 | — |
| 単体・その他 | 234 | — | 491 | — | 856 | — | 1,675 | — |
| ノート型 | 838 | — | 1,871 | — | 3,265 | — | 6,035 | — |
| (構成比) | (69.1%) | | (67.6%) | | (66.1%) | | (64.9%) | |
| モバイルノート | 219 | — | 421 | — | 694 | — | 1,274 | — |
| A4型・その他 | 619 | — | 1,449 | — | 2,571 | — | 4,761 | — |
| 出荷金額計(億円) | 1,388 | — | 3,299 | — | 5,977 | — | 11,346 | — |
| デスクトップ | 401 | — | 1,023 | — | 1,956 | — | 3,813 | — |
| オールインワン | 198 | — | 590 | — | 1,189 | — | 2,295 | — |
| 単体・その他 | 202 | — | 433 | — | 766 | — | 1,518 | — |
| ノート型 | 987 | — | 2,276 | — | 4,021 | — | 7,533 | — |
| モバイルノート | 313 | — | 635 | — | 1,088 | — | 1,989 | — |
| A4型・その他 | 674 | — | 1,641 | — | 2,933 | — | 5,545 | — |

[注] 四捨五入のため、内訳の和と合計が一致しない場合がある。

地上デジタルテレビ放送受信機

| | 3月実績 | | 第4四半期 | | 下半期 | | 2007年度 | |
|---------------------|------|-----|--------|-----|---------|-----|--------|-----|
| | | 前年比 | (1~3月) | 前年比 | (10~3月) | 前年比 | (4~3月) | 前年比 |
| 地上デジタルチューナ内蔵 PC(千台) | 37 | — | 109 | — | 209 | — | 390 | — |
| デスクトップ | 20 | — | 65 | — | 135 | — | 253 | — |
| ノート型 | 17 | — | 44 | — | 75 | — | 137 | — |
| ワンセグチューナ内蔵 PC | 2 | — | 8 | — | 21 | — | 62 | — |

[注] 1. 四捨五入のため、内訳の和と合計が一致しない場合がある。

2. チューナ「内蔵」とは、PC本体に同梱の場合も含む。

3. 地上デジタルチューナとワンセグを同時に内蔵している場合は地上デジタルチューナ内蔵としてカウント。

JEITA

パーソナルコンピュータ国内出荷 3月及び年度の概況

- 3月の出荷台数は121万3千台、うちデスクトップ:37万5千台、ノート型:83万8千台である。ノート型比率は69.1%で単月実績としては、過去最高となった。ビジネス市場において、年度末の追い込みや、大型案件の増加により堅調であった。
出荷金額は1,388億円で、うちデスクトップ:401億円、ノート型:987億円である。
- 第4四半期(1~3月)の出荷台数は276万9千台、うちデスクトップ:89万8千台、ノート型:187万1千台である。ノート型比率は67.6%であった。
出荷金額は、3,299億円である。
- 下半期(10~3月)の出荷台数は493万9千台、うちデスクトップ:167万4千台、ノート型:326万5千台である。ノート型比率は66.1%であった。
出荷金額は、5,977億円である。
- 2007年度(4~3月)の出荷台数は930万1千台、うちデスクトップ:326万6千台、ノート型:603万5千台である。ノート型比率は64.9%となり、年度でも過去最高であった。
出荷金額は、1兆1,346億円である。

コンシューマ市場は、新 OS の買替え需要やノート PC の販売好調により、1年を通じて堅調に推移した。また、高性能 CPU や大容量メモリを搭載した上位モデルと、機能を絞ったエントリーモデルへの二極化が進んだ。

ビジネス市場においては、上半期は買替えサイクルの谷間であったため伸び悩んだものの、下半期以降、買替え需要の回復と大型案件の増加により堅調に推移した。また、新 OS へのリプレースも徐々に進んできた。

なお、2007年度から統計参加会社が13社になっている。(2006年度は16社)

- 地上デジタルチューナ内蔵PCは、3月は3万7千台、年度では39万台となった。
ワンセグチューナ内蔵PCは、年度で6万2千台である。
地上デジタルチューナ内蔵PCは、年度末には累計で104万7千台となり、ワンセグチューナ内蔵PCを含めると120万4千台となった。

2007年度
自主統計
参加会社

アップルコンピュータ(株)、NEC、シャープ(株)、セイコーエプソン(株)、(株)ソーテック、ソニー(株)、(株)東芝、(株)日立製作所、富士通(株)、松下電器産業(株)、三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)、(株)ユニットコム(旧 アロシステム(株))、レノボ・ジャパン(株) 計13社

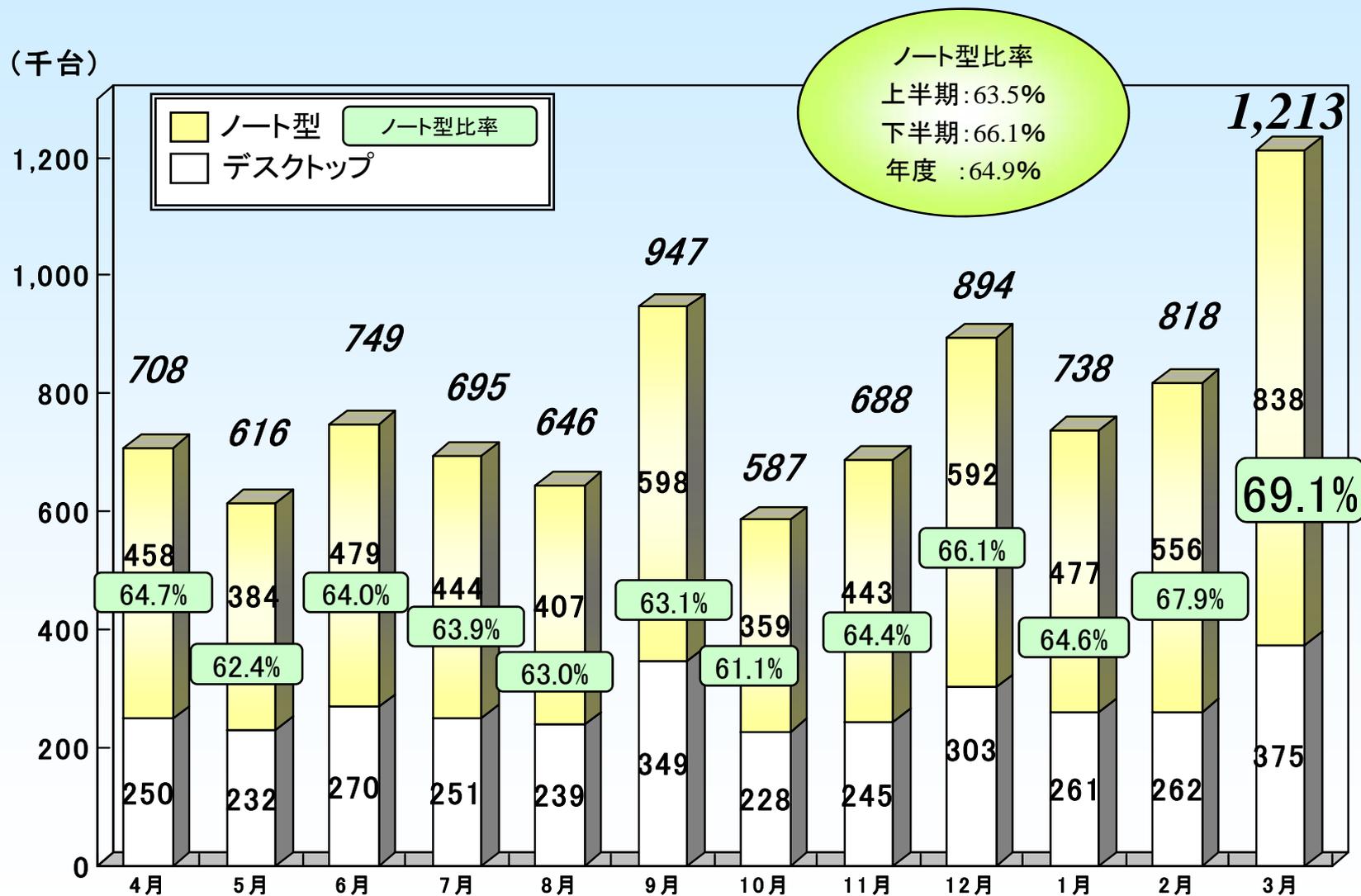
1. 2007年度 国内出荷実績

| | 年度 | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 上半期 | 下半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | |
| 出荷台数 (千台) | 4,362 | 4,939 | 2,170 | 2,769 | 9,301 |
| 出荷金額 (億円) | 5,369 | 5,977 | 2,678 | 3,299 | 11,346 |

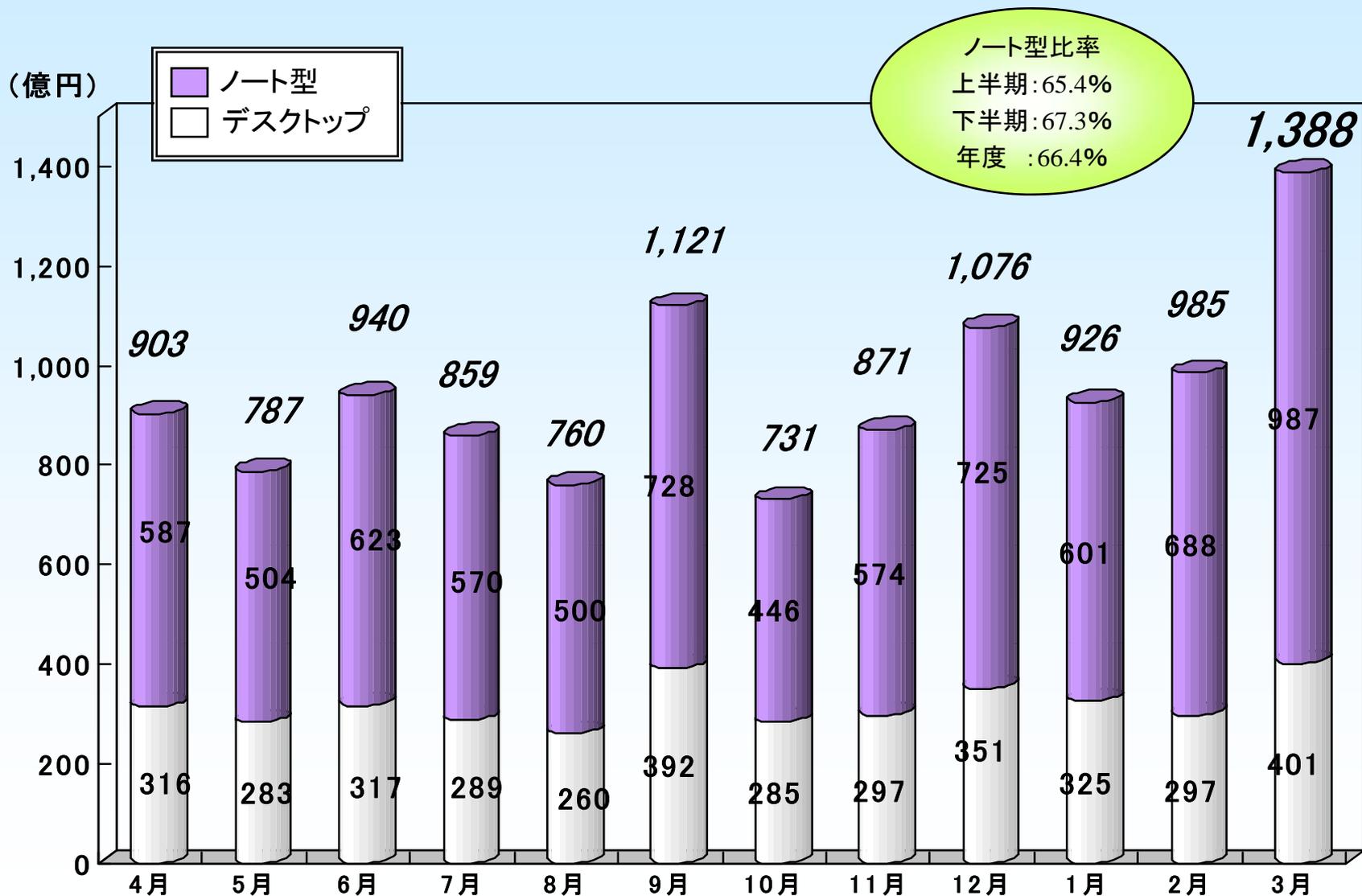
◆統計参加会社の変更

06年度:16社 → 07年度:13社

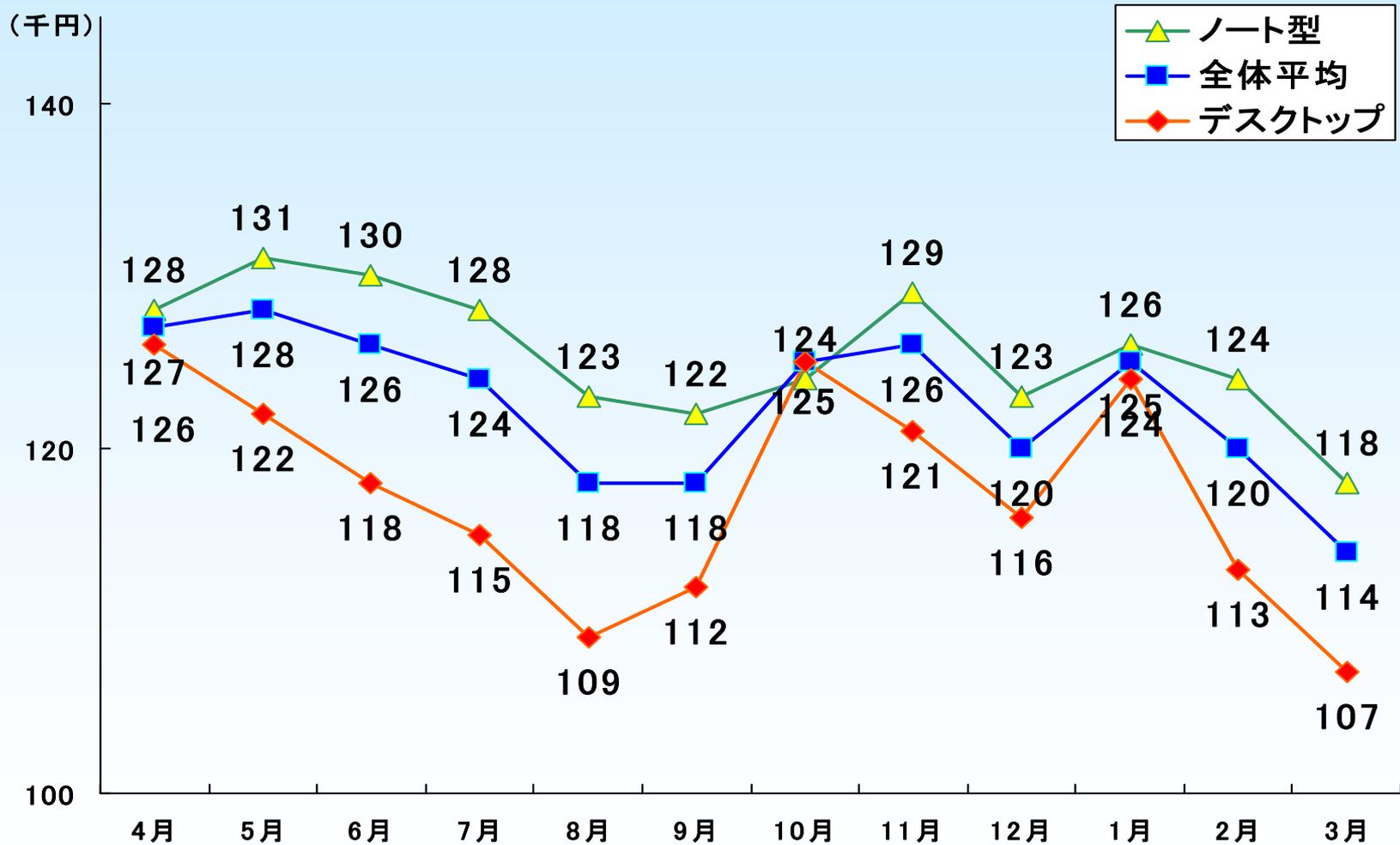
2. 出荷台数推移〔形状別・毎月〕



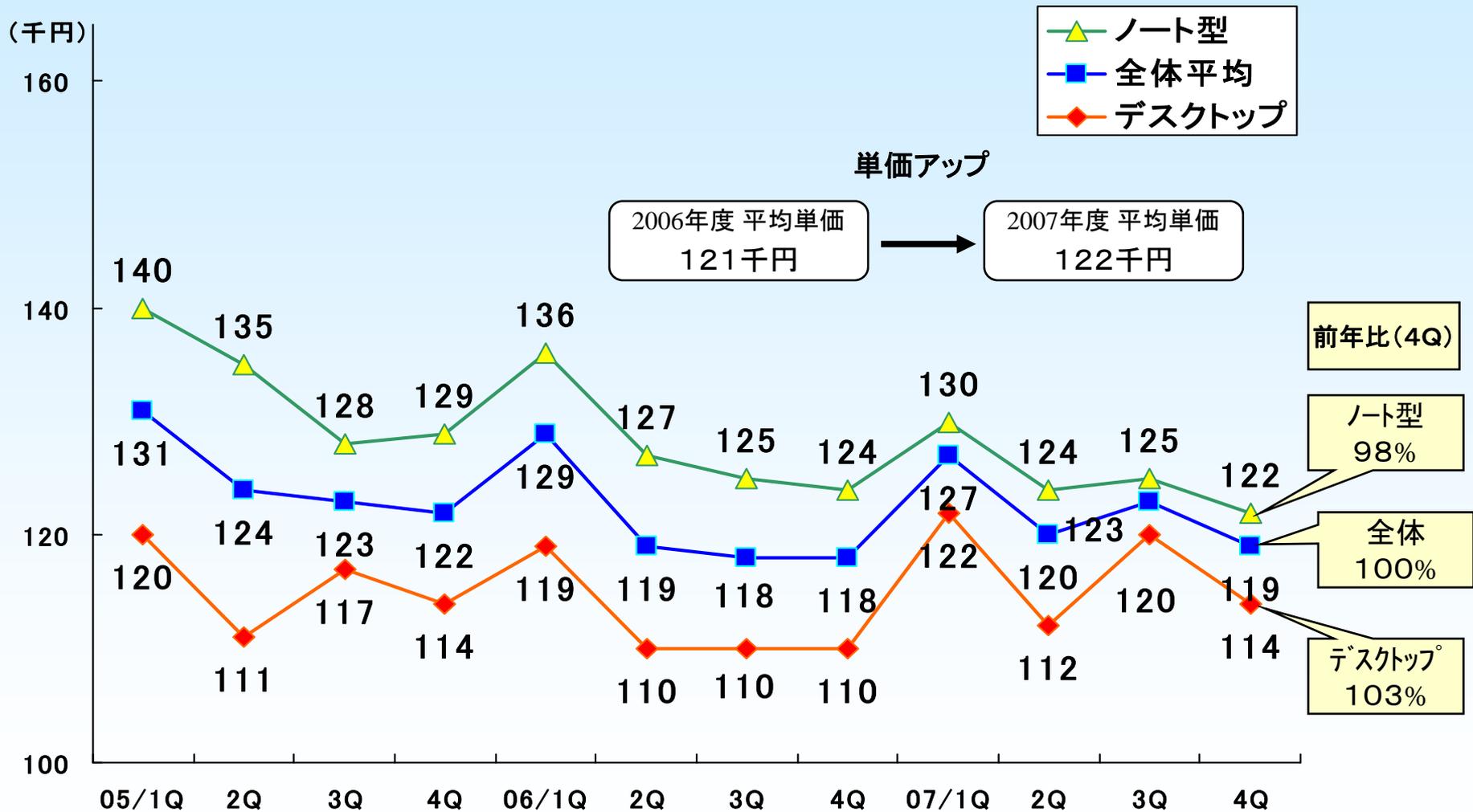
3. 出荷金額推移〔形状別・毎月〕



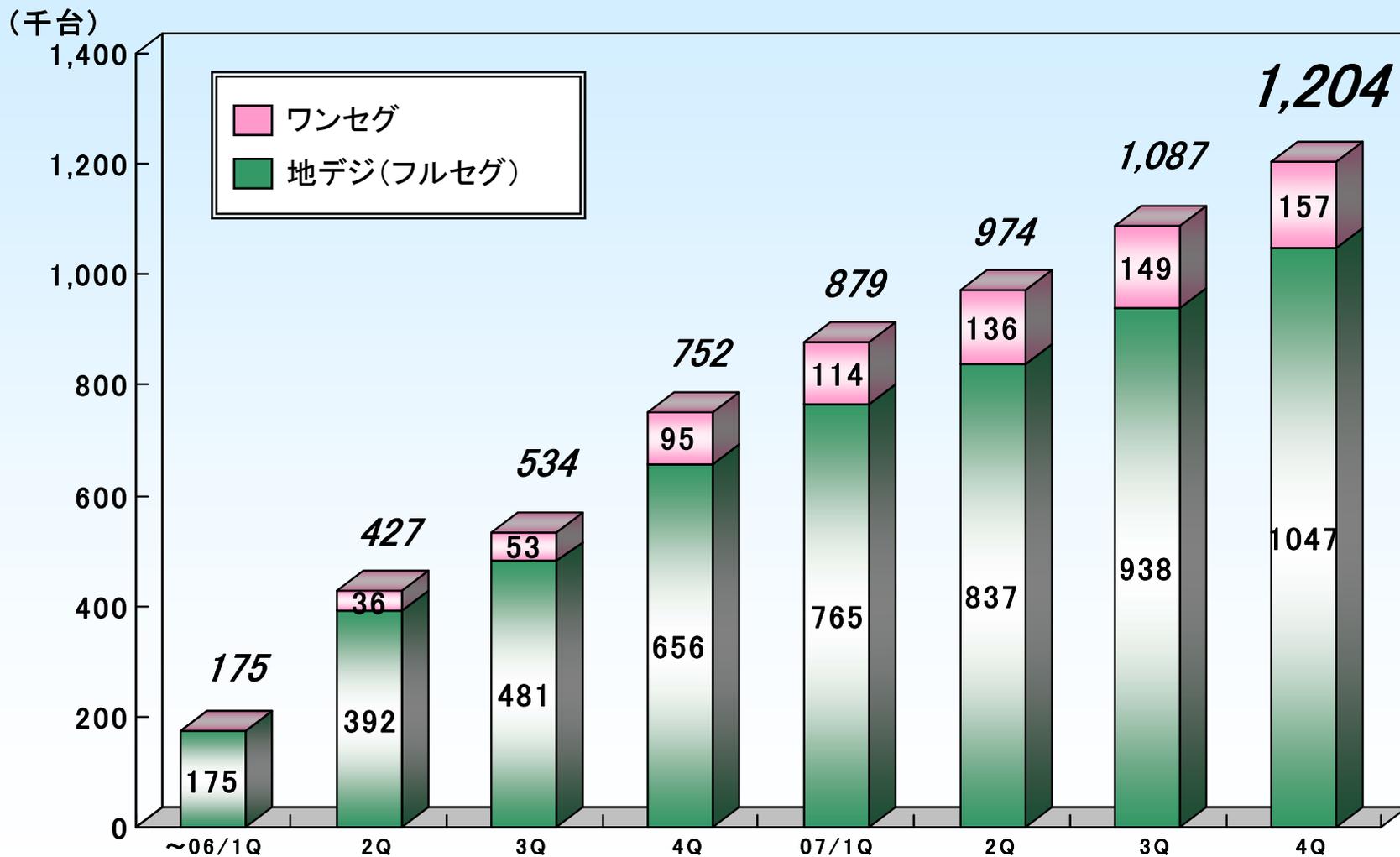
4-1. 出荷単価推移〔毎月〕



4-2. 出荷単価推移〔四半期〕



5. 地デジ対応モデル出荷台数累計



6-1. 用途別分析① ビジネス市場

◆ 2007年度は伸び悩むも、2008年度は需要回復へ

| | 2007年度の分析 | 2008年度の見通し |
|--------|--|--|
| ビジネス市場 | <ul style="list-style-type: none">●大企業での需要は上半期停滞気味。 (新OSのシステム評価中) 下半期は徐々に需要回復へ●中堅・小規模企業は比較的堅調。●新OSへのシフトを前提とした高性能モデルの需要で、単価ダウンに歯止め。 | <ul style="list-style-type: none">●景気停滞の懸念はあるが、PCはリプレース需要が予測され、需要は堅調。●新OS搭載モデルが検証段階から導入段階へ。 (大企業も対応準備が徐々に完了)●個人認証、シンクライアント採用などのセキュリティ強化ニーズが拡大。●環境への意識の高まりによる、省電力ニーズが拡大。 |

6-2. 用途別分析② コンシューマ市場

◆ 2007年度の需要は堅調、2008年度も引き続き堅調

| | 2007年度の分析 | 2008年度の見通し |
|----------|--|---|
| コンシューマ市場 | <ul style="list-style-type: none">●新OS搭載モデルが出揃い、堅調に推移。●二極化進むも、売れ筋は上位機へシフト。(高性能CPU比率アップ)●ノート型が引き続き好調。 | <ul style="list-style-type: none">●新OSの浸透による買い替え促進、高性能ニーズの増加により引き続き堅調。●モバイル通信環境の充実により、モバイル、ウルトラモバイルの新需要拡大。●2台目需要の拡大。 (地上デジタルチューナ内蔵 PCなど)●ユーザ層の拡がり。 (退職を迎える団塊世代、学生など) |



2008年度の見通し

● ビジネス市場

- 景気停滞の懸念はあるが、リプレース需要が予測され、需要は堅調。
- 新OS搭載モデルが検証段階から導入段階へ。
(大企業も対応準備が徐々に完了)
- 個人認証、シンクライアント採用などのセキュリティ強化ニーズが拡大。
- 環境への意識の高まりによる、省電力ニーズが拡大。

● コンシューマ市場

- 新OSの浸透による買い替え促進、高性能ニーズの増加により引き続き堅調。
- モバイル通信環境の充実により、モバイル、ウルトラモバイルの新需要拡大。
- 2台目需要の拡大。
(地上デジタルチューナ内蔵 PCなど)
- ユーザ層の拡がり。
(退職を迎える団塊世代、学生など)